

# AEEN WORKSHOP 資料

2007.8.25

東川第三小学校 湯浅希美

テーマ

## 小規模校における英語活動について

### はじめに

昨年本校に赴任し、はじめて英語活動というものに関わりをもたせていただきました。私自身、「英語をペラペラ話せたらな～」という気持ちはもともと強かったのですが、高校英語についていけず、今では全く英語に関して何の知識もセンスも持ちあわせていない大人になっています。ただ、縁あって本校に赴任し、子どもと共に英語活動を行っているうちに「英語って楽しい!」という気持ちがまた芽を出してきました。子どもが楽しく活動するためには、まず私たち教員が楽しむことが大切なのかなと感じています。

さて、テーマにもありますように本校は全校児童17名の小規模校です。現在、3年生以上の7名(3年...3名、4年...1名、5年...3名)が総合において英語活動を行っているところです。今回のWORKSHOPでは、異学年が1時間の中でどのように英語活動を行っているのかを少しでも紹介できればと思います。

### 7月6日に行った実践～顔のパーツとそれを使ったアクティビティー～

(授業の詳細は別紙をご覧ください)

#### 学習した言語材料

eyes ears mouth nose face hair eyebrows

#### 【ゲーム Simon Says】

- ・ ALTが「Simon says. Touch your eyes.」など、「Simon says.」という言葉をつけた場合、児童は言われた顔のパーツをさわる。
- ・ ALTが「Touch your ears.」など、「Simon says.」を言わなかったときは、児童は何もしない。

大変よく知られているゲームです。みなさんをご存知かと思います。

昨年の授業でも行いましたが、なぜか大人が間違えます。そして、子どもの笑いの的にされます...

#### 【ゲーム Point to (Touch the base)】

- ・ 2チームに分かれる。
- ・ 両端からカードにある顔のパーツを発音していき、ぶつかったところでジャンケン。
- ・ 負けたチームは次のプレーヤーに交代。(スタートから)勝ったチームのプレーヤーはそのままどんどん進んでいく。
- ・ 相手チームの陣地までたどり着いたら勝ち。

陣取りゲームと言われるものです。「指差し&発音」で言語材料の定着をはかります。

本校の児童はこのゲームに慣れているのもあり、スムーズに行っています。

### 【ゲーム 福笑い】

- ・ 2グループ（3年生グループ / 4・5年生グループ）に分かれる。
- ・ 誰か1人が目隠しをする。
- ・ ALTが顔のパーツを順に言う。（最初は必ず「face」）
- ・ 他の児童は全員で発音し、目隠しをした児童にパーツを渡してあげる。

POINT パーツを渡すときは必ず全員で発音すること。

POINT 目や耳については、右か左かを日本語でいいので教えてあげる。  
（right/leftは本時の言語材料ではないので）

### 【ゲーム Draw a monster】

- ・ ALTが「One face.」など、次々と指示を出していく。
- ・ 児童はそれを聞きながら自分の思うようにモンスターの絵を描く。  
「数」についてはこれまでの時間に学習済みです。

## 8月22日に行った実践 VTR～「BROWN BEAR」をベースにした英語の絵本作り～

7月6日の授業で分かったのが、本校の児童が絵を描くのがとても好きだということでした。英語活動を行っている児童の中には、「英語があまり好きじゃない」と言っている子もいるのですが、絵を描く作業を入れたことで英語に対する抵抗感が少し和らいで、楽しく活動できたようです。そこで、夏休み明け一回目の英語活動では、前回日章小の川崎先生が紹介された「英語の絵本作り」に挑戦してみました。当日の授業をビデオに撮ってきましたので、小規模校での英語活動の様子を少しでもご覧いただけたらと思います。また、本校は7名の児童に対して5名もの指導者が入って1時間の授業を行っています。（私は2年生担任のため、本来は英語活動担当外なのですが、隅っこのほうに入れていただいています。恵まれております…。）5名の指導体制についても、目を向けていただければと思います。

- ・ HRT（全体進行）
- ・ AET（Native Sound）
- ・ JET（HRTの補助、Week Studentの支援）
- ・ HRT（Week Studentの支援）

